恵み

第38号
令和7年5月1日
発行　聖マリアの園
〒853―0052
五島市松山町706―3
(0959)72―6129

特別養護老人ホーム聖マリアの園　施設長　村上順子

新緑の美しい季節となり、令和七年度がスタートして、はや一か月が過ぎました。カトリック教会では、復活の喜びに沸いていた時に、教皇フランシスコの逝去のニュースで心が塞ぐ思いでした。しかしフランシスコ教皇は最期の時まで、ご自分の使命を全うして旅経ったようです。亡くなる前日には、ヴァチカンの広場に参集していた全世界の各地から巡礼してきた皆さんに、復活の祝福を送られ、代読されたメッセージで「復活祭はいのちの祭りです」と強調し、「弱い人、疎外された人、移住者」に向けられた「さげすみ」を非難し、世界の紛争地での永続的な平和を祈られました。翌日朝七時三十五分逝去されました。貧しく生きられたフランシスコ教皇が遺した財産は日本円にして一万五千円ほどだったとの事。この事実は私たちに多くのことを考えさせます。ここで、教皇フランシスコが残した最後の手紙を分かち合いたいと思います。

「この世に私のものは一つもない」

この世のすべての愛する子供たちへ。私は今日、この人生を通りすぎるものとして、小さな告白を一つ遺したいと思います。毎日、顔を洗い身だしなみを整え、鏡の前に立って生きてきました。その姿が「私」だと信じていました。　しかし振り返れば、それはただの一時的に纏う衣でした。私たちはこの身体のために、時間を使いお金を使い、愛情と情熱を注ぎます。

美しくありたい。老いたくない。病気になりたくない。そして・・・・死にたくないと願いながら。　ですが、結局はこの身体は、私の願いにかかわらず、太り、病み、老いそして静かに私から離れていきます。　この世で本当に「私のもの」と呼べるものは一つもありません。　愛する人も、子供も、友人も、そしてこの肉体さえも。　すべては雲のように、一時的に留まるだけの存在です。憎い縁も、美しい縁もすべては私に与えられた人生の一部でした。　だから、避けられないなら抱きしめてください。　誰かがしなければならないことなら「私が先に」そう思って取り組んでください。無理やりでなく、喜びの心で。　やらなければならないことがあるなら、先延ばしせず、今日、今すぐに行いましょう、　あなたの前にいる人に、あなたのすべての心を注いでください。　泣けば解決するでしょうか。　怒れば、よくなるでしょうか。争えば、勝てるでしょうか。この世の出来事は、すべて、それぞれの流れに従っています。　わたしたちができるのは、その流れの中で少しの余白を与えることです。　少しの譲り合い、少しの思いやり、少しの控えめさ。　それが、誰かにとって温かな息抜きとなります。　そして、その温もりが、世界を再び包み込む力となるのです。　今、私は旅立つ準備をしながら、この言葉を遺したいと思います。　「本当にありがとう。」わたしの人生に触れてくれた人々へ。　すべての縁へ。そして、この美しい世界へ。「私と縁を結んでくれたすべての人々に、心から感謝します。」　静かに振り返ると、この人生は、感謝に満ちた奇跡なような旅でした。　どうか、あなたの人生にも、このような静かな奇跡が訪れますように。　心からお祈りしながらこの手紙を終えます。　フランシスコ（一九三六～二〇二五）